

□水彩畫の初研究

東京府 山本野榮

私は固より、畫の天才の無い、頗る付の不器用な人間でありましたが、一昨年八月初旬、同好の友三人とて、青梅町に在せし大下先生のお宅へ參つて、種々先生の有益なお話を拜聴したのみならず、目新しい先生の寫生畫や、お集めになつた葉書帖を見て、あゝ寫生畫の美しいことよ、あゝ『繪はがき』の麗しいことよ、と變趣味な私のやうな者も、美的の感にうたれたのです、それ計りか、自分のやうな者もドウカ、一寸したスケッチ位、出来るやうになりたいと、此時始めて水彩畫を學びたいと云ふ熱望が出たのです。

爾來、親友島田晚韻君に先生の著『水彩畫の栞』を借りて、熟讀したり、援抄したりして、本年になつて繪具を求めて、事業の餘暇、下手乍ら、野外寫生や、室内寫生をして、唯一の娛樂として居ります。今まで、左程目にも止めなかつた、附近の風光も、繪具を求めてから、否、畫を學ぶやうになつてからは、牛飼ふ小家の趣味に富める様や、野に生へる、小さな草花の可憐な様

どが、目に映るので、あゝあの牛小家はドウ畫かう、あゝあの草花はドンな色で畫かうかと、色々な感想が浮んで来る、而かも微細な自然の現象にまでも觀察力を増すやうになつたのは、まこと、水彩畫研究の賜物であらうと信じます。

□自然的の精神療法

上總 茅野瀧泉

僕は病氣の爲め水彩畫を始める迄は、愉快な樂みな事は少しもなかつたが、畫を始めてから面白き畫の研究に心を奪はれて多少痛苦を感ずる程度を減じた。毎夜悪夢に襲れたものが、近頃は寫生に出て畫面へ實景と稍々同じき色調を得た事、或は臨本を模寫して原畫と似よつた事など、愉快な夢を見る事が出来る様に成つた故、自然的の精神療法を受けるので、神經衰弱も幾分か良いかの如く思はれる是れ皆畫を學びて得たる僕の顯著なる利益であります。

□水彩畫と哲學

神奈川 北 生

カントの看破せし如く宇宙は主觀の産する處

である、僕が水彩畫を習ひ初めてから宇宙は一大變動を起し出した、今迄は單に「青い」とばかり思て居た空や草原や海も今は皆それ／＼特殊の美を發揮して居る、けれども之れは宇宙が變化したのではなく僕の主觀が水彩畫的になつた爲め其美を認める事が出来る様になつたのである。厭世家の眼には萬物皆不快の色を帯びて映るであらう、けれども水彩畫を學びつゝあるものには一樹の蔭にも美の神の宿り給へるが如く見へて、大下先生の云はれた通り實に大なる繪畫の中に棲息して居る様な愉快の感がある是れだけでも吾人のライフを幸福ならしむべく大なる効能があると思ふ。

□寫生日記の一ふし

三重縣 辻芳三郎

一月四日、目を醒ますと早や七時半、寢過したりと、朝餉もそこ／＼にすまし、前夜用意の繪具、スケッチブック、藥の空ビン、三脚代用の新聞紙など片手に目的地の岩田川口を指して出掛けた、對岸に船が一つ、其後松林をへだて、遙かに經ヶ峯の白い冠が日光に輝いて、實に美しい景色、一心に筆を運ばすこと一時間半、やつとのことで畫き終り、傍を見ると、いつの間に来たか、小供が五六人、自分の繪を見て、カス／＼笑つて居やがる